

ユースアドバイザーとは・・・

1 内閣府が提唱するユースアドバイザー

「若者支援ネットワーク」とは、若者自身のニーズを中心に諸機関のサービスが統合され、連携のある有効な支援ができる体制である。ネットワークのセンターとして、個々人の自立の課題に沿って継続的に支援をする調整機関を置く。ここには、若者のニーズに対応できるスタッフ（たとえば臨床心理士、キャリアコンサルタント、ケースワーカーなど）とともに、若者の全体像を理解し、諸機関の連携プレーを推進する要となる「ユースアドバイザー（以下「YA」という。）」を配置する。YAは、地域の包括的なサポート体制が有効に作動するために不可欠な役割を果たす人材である。また、YAは調整機関だけでなく、ネットワークを構成する専門機関やNPO等の民間団体にも配置される。

YAはこれらの専門家を結合する要の役割を果たす人材であり、複合的な困難を抱える若者に対して、専門の異なる関係者を束ねて包括的な支援ができるような役割を果たす人材である。YAは、支援に関する専門知識はもとより、若者に対する広い見識があり、若者と共に活動する知識や体験を持った人物である。

若者支援機関では、情報提供（information）、助言（advice）、支援（guidance）の業務に、臨床心理士、キャリアコンサルタント、ケースワーカーなどの専門資格を持つスタッフが関与していることが多いが、それらの資格のないスタッフも少なくない。しかも、上記の専門職が若者にとって適切な支援者であるとも限らない。心の問題にしか関心を示さない臨床心理士や、就職指導にしか関心のないキャリアコンサルタントに対する批判も現場では聞かれる。また、若者の支援に関わる市民ボランティアも必要であるが、その質を高めることも課題である。

<引用：内閣府 ユースアドバイザー養成プログラム（改訂版）>

2 新潟市が提唱するユースアドバイザー

新潟市ユースアドバイザー（以下「市YA」という。）は、専門機関やNPO等の民間団体で活躍されている者、青少年育成に関わっている者、若者支援に熱意のある者で構成し、様々な角度から若者を支援している。新潟市若者支援センター（以下「センター」という。）の「居場所」で若者を見守ったり、事業の企画実施の支援をしたりしてセンターのスタッフのサポートをしている。

(1) 設置目的

- 若者が自信を持ち、社会性を身に付け、夢や目標に向けて動き出すためのサポートを行う。

(2) 業務内容

- ① 居場所での若者の見守りと支援（傾聴による寄り添いと受けとめ）
 - ・声かけや話し相手
 - ・ミニ講座や自主企画支援
 - ・相談や事業へのつなぎ
 - ・掲示板や机などの居場所に関する環境整備
- ② スタッフとの協働支援（居場所や事業の支援・自立支援講座の企画運営・補助）
- ③ 自らの資質を高めるための研修（運営委員会・全体会）

3 相違点

基本的に内閣府と当市が目指すYA像は同じである。当市では市YAを調整機関であるセンターに配置している。また、市YAの中には他の専門機関やNPO等の民間団体で活動している者もいる。内閣府では、専門家を束ねる包括的な支援をコーディネートする要としているが、その業務は当市では主にセンターのスタッフが中心となって行っており、市YAは主にそのサポート役を担当している。センターでは、居場所を運営し、そこでの若者の見守り、さらに相談と事業のつなぎ役を担っている。